

みぎわっしん

Vol.10
2022.7



最後まで自分で居られる場所

NPO法人みぎわ理事
松原 宏樹

ホームホスピスに入所される方は、さまざまな背景を持って来られます。本当に愛されて家族に大切にされてきたのだと思わされる方も多数おられますが、家族がいても成年後見人が立てられていたり、家族の関係が壊れているような方々もおられます。
しかし、等しく言えることは、家族や大切な人間関係が壊れている人は、それが心にも大きな影響を与えて、その人の体調にも大きく影響を及ぼします。

ホームホスピスの大きな特徴は、そこで働くスタッフと心の通ったあたたかな人間関係を築き直して、最後まで自分らしく生きることが出来る場所だと言うことができますと思います。

一言で言えば、「家族の愛」
入所される方々は、みぎわの中でこのぬくりに触れて、自分も取り戻し、かけがえのない時間を過ごされます。私は、そのような光景を何度も何度も目の当たりにして、「この時間がいつまでも続いたらいいのにな」と願うのです。

Aさんは、ガンの末期で全ての病院の治療を断ってみぎわに入所されました。入所された頃は、Aさんの体に触れることさえ許してもらえませんでした。それほど、外部からの働きかけに対して信頼する事ができない方でした。
しかし、家族とは、その中の1人が問題や痛みを持てば、他の人がそれを補って、支えあって共同体を形成します。みぎわも同じように、Aさんの痛み悲しみに共感しつつ、Aさんが心地よいと思える距離感からの支援が始まりました。スタッフは、祈りながら1番何が最善かを考えながらの支援です。そうこうしているうちに、Aさんの体力も徐々に落ちてきました。
それと同時に、スタッフがAさんの体力の落ちた部分をさりげなく補っていきました。そのように、決して押しつけではない、真実の寄り添いの中でAさんは心を開かれて、みぎわのスタッフとの心の交流、真実な交わりが出来るようになりました。
このままずっとこの状態が続いたらいいのにと思うほど、Aさんにとって豊かな時間が流れました。

しかし、徐々に体力が落ちて、食事でも喉を通らなくなった時、みぎわのスタッフが、Aさんの大好物を聞きしました。それは、鰻でした。最後にAさんに鰻を食べさせてあげたいと願ったみぎわのスタッフは、Aさんの行きつけのいつものお店に3時間かけて鰻を買いに行きました。どこの鰻も同じように思いますが、その日のその鰻には、スタッフのぬくもりが込められていたのです。不思議な事ですが、食べ物が喉を通らなかつたAさんが、その鰻を美味しく食べてくれたのです。

私はそれを聞いて、愛するという事は、言葉や口先ですることではなく、行いを通して表されてそれはその人の心と体を潤し、人間らしく生きる力であると思いました。
Aさんは、みぎわのスタッフと家族に見守られながら最後の最後まで命の灯しを燃やして天に召されました。人間は、自分の事を知っているようで、自分が見えません。
しかし、あたたかな愛で包まれた時、自分を取り戻します。ホームホスピスはそんな場所なのです。

してあげたいこと全てが「緩和ケア」

ホームホスピスみぎわ管理者・理事
塚井 義彦

札幌で訪問診療をされている先生が「緩和ケア」について、このように言われています。

『緩和ケアとは、家族や近い方がしてあげたいこと全て。風邪をひいた幼な子にしてあげてを思い出してください。』

心配ないよ、ここにいるよと抱きしめて、汗をかいた肌着を取り換えて、消化の良い食べ物を用意して、風通しの良いように工夫して、子守唄を眠るまで歌う。



それは全てが素晴らしい緩和ケアです。』

自分の大切な家族にさえ思うように会うことが出来ないという状況がここ2年を超えて続いてきました。ご高齢の方にとって、またその方々の生活をお手伝いさせて頂いている者にとって、それは生命を脅かしかねない相手との対峙の時であったとともに、「生きる」ということの意味や、「私たちがこの場所で大切にしたいこと」は何だったのかということを考えさせられた日々となりました。

そのような日々の中でいつも切なく思ったのは、会いたいのではなくご家族、友人、心許せる人に違いない。触れたいのはビニール越しの手や目、マスク越しの声ではなく、心を感じる事の出来る生身のひとの体温に違いないということ。「もう本当に時間のないこの方。神さまどうかご家族と心置きなく過ごすことのできる時間をください...」
本当に祈るばかりの日々でした。

今はほんの少しだけ、以前の緊張から解かれており感謝です。

“いつでもそばに居られること”
“して差し上げたいことが十二分にできること”

そんな平和な状況が世界中に訪れ、そしていつまでも続きますように。

goodmorning

朝食

昼食

おやつ

夕食

ホームホスピスはみなさまにとって“おうち、基本的に日課はなく、自由に過ごしていただいています。またご家族様のご面会時、入浴やお食事の介助のご希望があればスタッフもサポートさせていただきます。ご家族様と一緒に入居者様に寄り添わせていただきたいと思います。

お身体に負担のないように、太陽の光で体内時計を活発に

◀お目覚めの方から順番に
デイサービスご利用の方は出発!!

余暇時間の過ごし方

テレビやお昼寝、入浴、訪問看護ケア、医師の往診、等々お話ししながら、洗濯物を一緒に畳んでもらったりすることもあります。
お誕生日会等もあります。

のんびりfreetime

のんびりfreetime

のんびりfreetime

◀お食事は感染対策をしながら、基本的にリビングでみんなでいただきます。

各自自由就寝 goodnight



入居者様インタビュー!!

Q1 みぎわに来られての第一印象は？

窓のすぐ外がキレイなお庭で自然が豊か。桜の時期だったので特等席でした。

Q3 スタッフの印象は？

みなさんととても親切に下さっています。夜中でも呼ばはすぐに来てもらえるから安心しています。

Q4 みぎわで一番好きな時間は？

テレビで野球中継を見ることが楽しみです。みぎわでは職員さんとも興味をもって下さって一緒に野球のお話ができるのが何より嬉しいです。

Q2 みぎわのお食事はどうですか？

おいしくいただいています。



- 2021 活動報告
- 11月 ✓ 児童養護施設「大和育成園」訪問、児童発達支援「麦の子」視察
 - 12月 ✓ 講演会（びわこチャロームチャペル、八栗シオンキリスト教会）
 - 1月 ✓ オンラインフォーラム（全国家庭看護推進ネットワーク）
 - ✓ 養子縁組民間あっせん機関職員研修参加
 - ✓ 全国妊娠SOSネットワーク研修参加
 - 2月 ✓ 報告会（ハレルヤチャーチ）
 - 3月 ✓ オンライン講演会（ダウン症協会奈良支部）
 - ✓ 講演会 Adoption Café（ライブホープネットワーク）

ホームホスピス

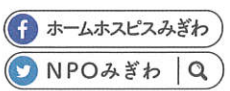
2022年1~3月末時点で2名の方の看取りをさせていただきました。人も季節も巡っていく中でも、入居者様とご家族様に寄り添うという事をいつも変わらず、大切にしていきたいと思っています。
入居ご希望の方おられましたら一度ご相談下さい。

2022年1~3月末時点で養子縁組が成立した赤ちゃんはいませんが、数名の赤ちゃんが成立に向けて準備中です。また現在も障がいや疾患を抱えた赤ちゃんのご相談は多数あります。養育情報の提供等を行いながら実親様のサポートに努めると共に、赤ちゃんが愛されて成長できる温かいご家庭をお繋ぎする働きをさせていただきたいと思っています。

養子縁組

NPO法人みぎわ 〒639-1001 奈良県大和郡山市九条町1064-9-301

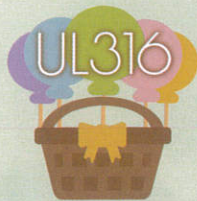
お問合せ npo.migiwa@gmail.com
TEL▶0743-85-5622 HP▶http://migiwa.link/



HPやSNSに今後の活動などの情報を随時更新していますので、是非ご覧ください。



ダウン症の赤ちゃんの誕生を 無償の愛でお祝いします



ユーエルサンイテロク

UL316は、ダウン症の赤ちゃんの誕生を無償の愛でお祝いし、ダウン症にまつわる固定観念を変えるために活動しています。UL316という団体名は、神様がすべての人を尊い存在として造られ、条件なしで愛してくださっているという聖書に基づき、Unconditional Love(無条件の愛)の頭文字と、ヨハネの福音書3章16節から付けました。

ダウン症の診断を聞いてから赤ちゃんが1歳のお誕生日を迎えるまでを対象に、ダウン症児の子育てに役立つ情報とアイテム、そしてすでにダウン症のお子さんを育てているご家族からの励ましメッセージを詰めたお祝いバスケットを無償でお届けしています。

代表の船渡川自身は、NPOみぎわを通して、ダウン症の娘を生後2ヶ月半の時から特別養子として迎えて育てています。娘は与えられた命を輝かせて生きています。私にとってこの子に出会えない人生などもう考えられません。娘だけにとどまらず、ダウン症を持つ人々の「尊さ」を証することが、私たちの社会全体を良い方向へ変えていくと信じて活動しています。UL316の主旨に賛同し、寄付者やボランティア参加者になってくださる方々を常に必要としています。



どうぞで関心のある方は、団体HPよりご連絡ください。

▶ <https://unconditionallove316.jp>



ダウン症を分りやすく伝えよう！
読み聞かせ絵本

出生前診断がもたらしたもの その7

助産師・認定遺伝カウンセラー 増井 薫



前回から続く、「聖書から見る障がい観」続編です。

『あなたがたは地の塩、世の光です』

出来たら「障がい」は無い方がいいのでしょうか、目立たないけれど、私達が生きていく為に必要不可欠な塩。

そして次は、光です。「あなた方は世の光である。山の上にある町は隠れることができない。」世の光を障害のある人、山の上にある町を私達に置き換えて考えてみます。『障害のある人は世の光である。私達は隠れることができない。』障がいのある人の光に照らされて、私達は逃げることも隠れることもできません。出生前診断という技術が利用可能なものとして目の前にある時、その技術に身を任せようとする人を目の前にして、あなたはどうか考えるのか？それは個人の問題で第三者が「とやかく」という問題ではないという声もありますが、果たしてそうでしょうか。

先日、来談した夫婦は、相談に来たにも拘わらず、自分たちの考えを話そうとしないし、こちらの話を聞くこともしない方でした。途中、夫が「この話を最後まで聞いたら、検査を受けない結論が出てしまいそうで・・・最後まで聞かないとだめですか？」とポツリ。

出生前診断の遺伝相談と他の遺伝相談とは、大きな違いがあります。他の遺伝相談は、相談を希望して遺伝カウンセリングを受けに来ますが、出生前診断の遺伝相談に来る夫婦の中には、検査は希望しているが、遺伝相談は希望していない。でもカウンセリングをうけないと、検査してもらえないからと、来談する夫婦も珍しくありません。この夫婦は、カウンセラーの話を聞くのが苦しくて、辛いように見えました。この時、この夫婦は「障がいのある人の光」に照らされ、内なる自分にとやかく言う現象が起きた、と私は感じました。もし、お腹の子どもに障がいがあることがわかったら(そんなことは考えたくもないけど)妊娠継続をあきらめる覚悟だったのでしょうか。その覚悟が、遺伝相談の話を聞くことで、光に照らされ、グラグラと揺れ始め、内なる自分に向かってとやかく言う感情が出てきたように感じました。

出生前診断を受けるか受けないかの選択、また検査を受けて障がいがあるとわかった場合の選択の責任のバトンは両親に手渡されています。もし、子どもに障がいがあったらどうしよう・・・という不安や心配といった感情は、御しがたいものでそれは霧の中や暗闇の中にいるようで、周囲を覆いつくし、視界を塞ぎ、手探りでも、進むべき道は見つからず、不安や心配はさらに大きくなるばかり。精神は不安定になり、もし障がいがあったら「育てることはできない」という結論しか出せずに、その結論を揺るぎないものにしようと必死です。それは、暗闇の中で、覚悟した結論です。その時に、光がその暗闇を照らします。

その光に導かれて、「障がいがあっても大丈夫」と思える安心感、周りの理解と支えがあれば、どうでしょうか？不安を抱えている隣人に「大丈夫だ」と声をかけ、支え合うことが当たり前の世界であれば、障がいのあるなしを確認する出生前診断の必要性はなくなるでしょう。

次号最終回

マンスリーサポーター募集

みぎわは月1000円～の決まった金額を毎月ご寄付くださるマンスリーサポーターを募集しています。継続的にみぎわの活動を支えてくださる方は、安定した活動のためになくてはならない応援団です。

こちらからお申し込みいただけます



賛助会員ご案内

- (振込先口座名)
特定非営利活動法人みぎわ
3000円(年会費)
- ①郵便振替口座
記号00910-8 記号311180
- ②ゆうちょ銀行
(他の金融機関からの振込)
店番:45 普通:0899351



2021年8月9日に(ハグ)に、みぎわで養子縁組が成立した家族の交流と情報交換や子育てのサポートを目的とした「ハグの会」が発足しました。



代表の岡田さんは、みぎわの養子縁組あっせんによりダウン症の女の子を家族に迎えています。会の名称の由来はHug-「抱く、抱きしめる」。子ども達や養親家族を始めとして、特別養子縁組を取り巻く様々な事を優しくハグして支えていきたいという想いが込められています。



バディウォーク in 檜原

Buddy Walk KANSAI in KASHIHARA

2022 夢の森フェスティバル YUME NO MORI FESTIVAL

日時 2022年10/15(土)、16(日)
午前10時 START

場所 檜原神宮

みぎわブース 出展予定です!

イベント詳細は順次NPOみぎわFacebook等でお知らせ致します。

NHK ETV特集 おうちへ帰ろう

障がいのある赤ちゃんの特別養子縁組

アンコール 放送決定

7/16(土) 23:00~
7/20(水) 24:00~
※予定変更の場合あり

2022年3月26日
NPO法人みぎわの養子縁組の働きを紹介していただきました。
「いのち」について考えていただく機会となればと願っています。

ご支援ありがとうございます

2021年4月～2022年3月末時点、約150名の方々から寄せられました会費、寄付金は4,857,228円となりました。

尊いご支援、ご協力に心より感謝申し上げます。

NPOみぎわの運営は、活動や趣旨に賛同していただいた方からの会費やご寄付によって支えられています。引き続き温かいご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。